

Crescendo

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど



vol.121

〈シリーズ〉大人のためのコンサート
～なるほどクラシック講座 vol.4

ラヴェルを巡る音楽
～100年前のパリって…？

「演劇・時空の旅」シリーズ#8 関連企画

木村つづく（フリーパーソナリティ）×
永山智行（演劇ディレクター）対談

永松先生の芸能さんぽ

音楽アウトリーチレポート



「演劇・時空の旅」シリーズ#8
1928年/ドイツ『三文オペラ』



〈シリーズ〉大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座 vol.4

チャスラフスカさんと モルダウの思い出から

先日、NHK時代の後輩からDVDが届きました。「ベラ・チャスラフスカ～もうひとつの肖像～」という彼が最近作ったドキュメンタリー番組です。東京とメキシコのオリンピック女子体操で金メダルを取ったチャスラフスカさんはチェコの国民的な英雄ですが、実はオリンピック直後から長い不遇の生活を強いられます。1968年のプラハの春、自由と独立を求める運動は旧ソ連の弾圧を受け挫折しましたが、彼女は抵抗の意志を変えず一切の公職を剥奪され、89年のソ連崩壊の日まで地下生活を余儀なくされました。

私は彼女の物語を番組にしたいと念願していたのですが、諸般の事情で実現できないまま月日が経ちました。2年前NHKを離れる時に、後輩たちが催してくれた集まりで、そのことを心残りだと話したのですが、後輩の一人がそれを憶えていて今年番組を制作放送したものです。73才になるチャスラフスカさんは今ガンで闘病中だということでしたが、実際に生き生きとした語りで、苦難を乗り越えた人ならではの清々しさと温かさを感じさせてくれました。

その番組の中で終始流れていた音楽があります。チェコの作曲家スマーナのモルダウ（わが祖国）です。私がこの曲を初めて聞いたのは50年あまり前の中学生の頃でした。放課後のテニス部での練習中に、その歌は突然聞こえてきました。遠くから美しく哀しいメロディーが聞こえ、私は誘われるよう音楽教室の窓際まで歩きます。合唱部の練習でした。「いとしの河よ、モルダウよ、過ぎし日のごと今もなお…」という歌詞がメロディーとともに今も記憶に残っています。プラハの春の5~6年前だったでしょうか。ということは、チェコの国と民族の悲劇やチャスラフスカさんの物語のはるか前に、そのことを見通したようにスマーナはこの曲を作ったのではないか…とさえ今回の番組を見ながら思いました。

音楽には、ある時代を生きた人たちの物語に寄り添うように作られ演奏されてきた魅力があるのではないかと、私は時々思います。今劇場では来年の音楽祭の準備が進んでいますが、時代と人の物語とそれにまつわる音楽を紹介するコンサートを一つできないだろうかと、今企画を練っています。一人でも多くの方がそうしたコンサートをきっかけに音楽祭に、そして劇場に足を運んでいただければと願いながら。私たちの財団は劇場の次の5年間の指定管理を受託しましたが、その最初の音楽祭はこれまでと少し違う新たな試みにも挑戦してまいります。どうぞお楽しみに。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場理事長 佐藤寿美



出演者から届いたコメントを 一挙紹介！

年間70公演以上をこなす、室内楽のプロ集団「クアルテット・エクセルシオ」ほか、海外で研鑽を積んだ実力派の宮崎出身演奏家が出演！



クアルテット・エクセルシオ
(弦楽四重奏團)

● 私たちは日本を拠点に常設の弦楽四重奏団として活動している、クアルテット・エクセルシオ(以下エク)です。結成して今年で21年目を迎えます。宮崎県には5年ぶりにお邪魔しますが、特に今回は宮崎の音楽家との共演を楽しみにしています。それは一緒に作品を作る、まさに室内楽の醍醐味を味わえるからです。エクにとってラヴェル作品の魅力は、とても情熱的なラテンやジャズなど様々な音楽スタイルを取り入れながらも、繊細で美しいアンサンブルを求められる事にとてもやりがいを感じます。職人技とも言える、ラヴェルが紡ぐ音の織物がどんな感触と色彩になるか、ぜひお楽しみに！



松本伸章(ピアノ)
※宮崎市出身・東京在住

感じたものでした。皆様にも是非、フランスのお洒落な作品を通して素敵な時間を過ごしていただきたいと思います。会場でお待ちしています！

シリーズ〈大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座〉vol.4

ラヴェルを巡る音楽 ～100年前の パリって…？

明るく・軽く・色彩豊かな
フランス音楽のシャワーを浴びに



桐原 直子
企画・監修／音楽事業アドバイザー

Message モネの絵画「印象・日の出」を見ていると、ドビュッシーの音楽やハープの音色が聴こえてくるようです。ちょうどその絵が描かれた頃、フランスの作曲家達は19世紀

末から音楽界を支配していたワーグナー等ドイツの重厚な音楽から解き放たれ、フランス独自の音楽を目指しました。

今回は、その頃の最もフランス色に溢れる音楽をお届けします。私が長年MCを務めたFMラジオのクラシック番組の中で特に気に入り、何度も放送し、「いつか宮崎演奏を…」と思い続けた名曲が、クアルテット・ハープ、フルート、クラリネットの七重奏曲、ラヴェル作曲「序奏とアレグロ」です。皆さんに是非聴いていただきたいこの作品をメインに、フランス20世紀初頭の音の宝石箱のような曲をご用意しました。演奏は、日本を代表する「クアルテット・エクセルシオ」をゲストに迎え、宮崎県出身の海外留学組4名との共演でお届けします。どうぞ明るく・軽く・色彩豊かなフランス音楽のシャワーを浴びにお越しください。



津野田圭(ハープ)
※延岡市出身・東京在住



日高由美子(クラリネット)
※宮崎市出身・在住

と思います。素晴らしい共演者の皆さん達と一緒に音楽を作ることが今から楽しみです。是非とも音楽の楽しさ、素晴らしさをご堪能ください。



熊谷愛香(フルート)
※宮崎市出身・在住

私が最も楽しんでいる曲は、ラヴェル作曲「序奏とアレグロ」です。ハープ、弦楽四重奏、クラリネット、フルートという計7人の大所帯のアンサンブルになるのですが、私にとっては初めての編成なので、どんな音色になるのか想像ただけでわくわくしてきます。神話の世界のような美しい風景が次々と浮かんでは変化していく、そんな曲です。是非多くの方に聴いていただきたい一曲です。

公演情報

〈シリーズ〉大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座
vol.4 ラヴェルを巡る音楽～100年前のパリって…？

1月28日(木) 【会場】演劇ホール

◆ランチタイム・コンサート～気軽に楽しむお昼の60分～
開場11:00 開演11:30(60分公演・休憩なし)

【料金】全席自由 一般1,000円[会員800円]

◆ソワレ・コンサート～じっくり楽しむ夜の100分～
開場18:30 開演19:00(100分公演・休憩あり)

【曲目】ラヴェル：弦楽四重奏曲より
ラヴェル：序奏とアレグロ
イベール：間奏曲 ほか

【料金】全席自由 一般2,000円[会員1,800円]
U25割1,000円 親子割2,500円

《延岡公演》音楽の散歩道シリーズ vol.22

ソワレ・コンサート

1月29日(金) 開場18:30 開演19:00

【会場】延岡総合文化センター 小ホール



「演劇・時空の旅」シリーズ#8 1928年／ドイツ「三文オペラ」関連企画

木村つづく×永山智行 特別対談

フリーパーソナリティ

木村つづく(きむらつづく) 30歳を契機に、7年半務めた宮崎の広告代理店を退社。2002年4月からバックパッカースタイルで旅に出る。約2年間でヨーロッパ、東南アジア、中国からエジプトまでのシルクロードの国々など、海外28カ国を旅する。現在は、フリーパーソナリティとして、宮崎のラジオ、テレビイベントなどで活動中。

世界の名作をお届けしてきた演劇「時空の旅」シリーズが、いよいよファイナルを迎えます。改めて「演劇」の魅力や今作「三文オペラ」の魅力について知りたい！そんな県民の皆さんの代表として、テレビやラジオで大活躍中のパーソナリティー木村つづくさんと、全作を通して企画・演出してきた永山智行演劇ディレクターが対談。見どころや作品にかける思いを語ってもらいました。（聞き手・宮崎日日新聞社文化部次長 落合敬史郎）

お二人の接点は？

一緒に仕事をされたことはありますか？

永山 去年、初めて直接お話ししたんですよ。前作「ゴドーを待ちながら」のPRのために、つづくさんがMCをやってらっしゃる番組に出させてもらって。それをきっかけに、「ゴドーを待ちながら」を観に来てくださいました。

木村 そうなんですよ。出演する俳優さんと一緒に出てくださいましたんですけど、すごくパワフルで。作品の紹介もわかりやすく、「めっちゃ面白い、このお二人！」と思って、当日観に行きました。

永山 木村さんのようなお仕事をされている方はお忙しいので、そんなに期待はしてなかったんですが…。「本当に来てぞ！」って（笑）。木村さんの誠実さを感じました。

お互いの印象は？

永山 聞き上手な人。それから、ハプニングに強いというか。スタイルトークの時に、自分たちは悪ノリしちゃって、すぐ話が全然違う方向に行っちゃうんですけど。木村さんはそれを無理に止めずに、流れに乗っかっていくのが上手い。一緒に楽しむ姿勢を持っていらっしゃる。今回のシリーズは「演劇・時空の旅」という名前なんですけど、木村さんも世界28か国をバッグパッカーで旅した経験があるんですよね。だからハプニングに強いのかな。

木村 あ～、そうかもしれませんねえ（笑）。旅の間中、ずっと行き当たりばったりだったので。良く言えば臨機応変（笑）。

永山 私の一番好きな言葉です、「行き当たりばったり」（笑）。

木村 僕が大事にしていることの一つに「出演者の方の『笑顔』を

引き出す」というのがあるんですけど。告知とかだと笑うことはなかなか難しいんですけどね。だから、ハプニングもきっかけの一つとして、笑顔を引き出せばと。素の笑顔に勝るものはないと思っていますから、それは大事にしています。で、僕の永山さんの印象といえば、「笑顔」。子どもみたいに笑いますよね。人生の先輩に対して失礼かも知れませんけど、すごく笑顔がかわいらしく（笑）。なんていうか、好きなことをしている人独特の無邪気オーラがありますね。きっとストレスもあると思いますけど、感じさせない。

永山 好きなことしますから（笑）。

木村さんは前作の「ゴドーを待ちながら」を観られていますが、感想は？

木村 「ゴドーを待ちながら」は、正直、少し難しかったんですよね（笑）。日常ではないところに連れていかれたというか。演劇の、一つの大きなものを喰らった気がしました。

永山 特に「ゴドー」はね（笑）。答えのない「宿題」みたいな感じかな（笑）。確かにわかりづらい作品だったかも知れませんが、劇場の中で過ごすというだけでも濃密な時間だと思うんですよ。鑑賞というよりは、体験として残っていくといいなと思います。

木村 そうですね、僕も、ずっと覚えてる舞台になると思います。

「演劇」について。木村さんはどんなイメージがありますか？

木村 放送は台本がある場合もありますけど、それ以外のもので、僕は臨場感とか人柄を引きだそうとする。でも「演劇」では、台

本をもとに作り込んだもので、お客様の心を揺さぶろうとする。これって、すごく鍛えて練習していかないと、その高みに行かない気がするんですよ。

永山 いやでもね、やってることは多分一緒。「稽古ができるのは50%」って言われていて、本番でお客様が入って100%になる。劇場で何ステージやっても、その日雨が降っているとか、今日は休みの日だ、みたいなことで、お客様が持ってきてくださる空気が全く違う。それと自分たちが作ったものがどう一つになっていくか。もちろんアクシデントはつきものです。いろんなことがあるんですよ、お客様にわからないところで（笑）。

木村 あるでしょうね～。生ものですもんね～。

「演劇」って敷居が高い、という人に向けて、演劇を楽しむコツを教えてください！

木村 それについて僕、思ってたことがあるんですけど。神楽ではお酒を飲んで観ることがあるじゃないですか。お酒に酔って、感覚がもっと高揚し開かれた状態で演劇を見ると全然違うのかもって。

永山 ぜひお酒を飲んで観に来てもらえば（笑）。もともと演劇の始まりってお祭りなので。神楽もそうだと思いませんけど、ギリシャ劇でも、葡萄の収穫に感謝する祭りから始まったものだったし。

木村 もちろんマナーを守ってですけど、それぞれが心地いい感覚になりながら舞台を見たら、また見え方も違うかもしれませんね。

永山 どうしてもね、おりこうさんにして見なきゃいけないと思われるがちなんだけど、私は全然そういうのを望んでいません（笑）。ただ、いろんなタイプの作品を見続けていただけると、生身の俳優が今そこで話し、立って、動いているという臨場感やその味わい方みたいなものを感じていただけるのではと思います。

「時空の旅」は、永山さん自身が九州を中心に活躍している俳優をスカウトして作っています。 どんな思いで始められたんですか？

永山 私が2006年から演劇ディレクターをやっていて、やっぱり作品をこの劇場で作りたいと思ったのがきっかけですね。宮崎を含め、九州にも様々な劇団がいて、いろいろな俳優さんが活躍していることを、この機会に知ってほしかった。この試みが宮崎から発信されることで、他の県の人から、「宮崎はおもしろいことやってるんだね」と言われることが県民の皆さんのお誇りになって、「演劇」に宮崎ブランド、九州ブランドができればいいな、という思いがありました。

木村 どんなお話なんですか？

永山 女たらしで窃盗団のメッキースという悪党が主人公。このメッキースが、町の乞食を牛耳っている顔役・ピーチャムの一人娘をたぶらかして、結婚することから起こる大騒動。メッキースは本当に悪党なんですけど、すごく女性にモテる（笑）。ほかの登場人物も悪いやつばかり。いわゆる善人はほとんど出てこない。でもその向こうに見える本当の人間らしさというか、「自由に生きたい」という根源的なエネルギーがこの作品の魅力かな。

永山さん、最後に県民の皆さんにメッセージを。 木村さんには、応援メッセージをお願いします！

永山 私が3月で演劇ディレクターを退任するということもあり、このシリーズの集大成です。民衆役として、オーディションで選ばれた県民の皆さん34人の歌うエキストラも出ます。この皆さんと一緒に、「みんな今ここに生きてるんだぞ」という、これまでで一番パワフルなエネルギーを届けたいと思いますので、ぜひ触れて来てください！

木村 永山さんの、最終回だからこそ思い入れとかパワーが絶対あると思います。この永山さんの「最終回力」、皆さん、見逃す手はないですよ～！僕も楽しみにしています。

永山 ありがとうございます！最後なので（笑）皆さん、ぜひ来てください！！

公演情報

「演劇・時空の旅」シリーズ#8 1928年／ドイツ『三文オペラ』

2月5日(金) 開場18:30 開演19:00 / 6日(土) 開場17:30 開演18:00 / 7日(日) 開場13:30 開演14:00

【会場】演劇ホール舞台上舞台

【作】ベルトルト・ブレヒト 【訳】谷川道子 【音楽】クルト・ヴァイル 【演出】永山智行

【料金】全席自由 一般3,000円[会員2,700円] U25割1,500円 なかよしチケット(ペア)5,000円

【出演】穴迫信一(ブルーエゴナク/北九州) 荒木宏志(劇団ヒロシ軍/長崎)

かみもと千春(劇団こふく劇場/宮崎) 榮田佳子(劇団千年王國/札幌)※北九州在住

多田香織(KAKUTA/東京)※福岡出身 手島曜(14+/福岡) 橋本隆佑(超人気族/北九州)

森タカコ(劇団HIT!STAGE/長崎) 神水流じん子(劇団25馬力/宮崎)※友情出演

歌うエキストラ(オーディション選抜)

→本州ツアー

・いわき公演 2月13日(土)~14日(日) いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場

・横浜公演 3月 5日(土)~ 6日(日) KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ

17歳～78歳の男女34名による「歌うエキストラ(民衆役)」も出演！



「演劇・時空の旅」を支える プロフェッショナルな人たち

「演劇・時空の旅」シリーズのスタッフは皆さんその道のプロばかり！

その中から美術、ヘアメイク、写真、宣伝美術で作品のビジュアルイメージを担う4名にコメントをいただきました。



美術

溝木 夢奈(ユニークブレーン)

今年の永山さんはどんな突拍子もないことを考えているんだろう。#3「三人姉妹」から関わっていますが、毎年最初の美術打ち合わせはワクワクします。永山さんの口から、台本にはない、想像もしていないようなコンセプトが飛び出でるので、それに対し私も世界観を探りながら舞台美術の提案を重ねていきます。新しい試みに挑戦してみたり、新たな素材を使ってみたり、私にとっても時空の旅シリーズは実験の場です。たった今打ち合わせしたのですが、#8「三文オペラ」はとてもライブな感じのようです。ご期待ください。

ヘアメイク

串間 大輔(D·A·I make up studio)

時空の旅シリーズは最初からヘアメイクを担当してきました。演出をほとんど見た事が無かったので、最初は永山さんの世界観を理解するまで時間がかかりました。今では永山さんの想いを汲み取りながら時代や設定を考えてヘアメイクしています。その他、役者さんの役どころや動き等も細かくチェックしてヘアメイクを考えています。三文オペラでもまた新たなヘアメイクを考え芝居と一体となった作品になればと思っています。初めて九州を出てのツアーということでワクワクしています。

写真

小河 孝浩(写真家)

舞台裏の雰囲気を伝えるために、あえてストロボは使わずタンゲステン光を使って撮影しています。電球光ですから光の質が柔らかく、目で見たままにライティングできます。ライトを1cm動かしても役者さんの表情が変わってしまうので、光を「読みながら」個性を引き出しました。舞台へ臨む8人の「臨場感」が伝わっていれば幸いです。そして今回は妻のふる里、福島県「いわき市」でも上演されるというご縁をいただきました。宮崎産の舞台と私の撮った写真を、いわきの家族に観てもらえることがとても楽しみです。いわきでの上演には4年ぶりに帰省する妻と一緒に観劇する予定です。

宣伝美術

スガタユキヒト(グラフィックデザイナー)

演劇好きデザイナーの私が、「演劇・時空の旅」を担当するのは4回目です。この仕事はとにかく難しい！年代や国も様々なので、脚本を上演するこの壮大なシリーズのために、毎回役者さんが九州から選抜されます。劇団ってカラーがあるものなんです。どんな作品となるか、なんとなく想像できます。「時空の旅」は…最後まで、もがき続けるのみ…。今回のデザインは「鏡」。鏡の中は別のもうひとつの時空、そんなアイデアです。デザインを担当した作品の観劇は特別な楽しみです。苦労した作品はなおさら。今回は「いわき」まで見届けてきますよ！！

これまでの「演劇・時空の旅」シリーズ（演出：永山智行）



永松先生の 芸能さんぽ

～舞台芸術のルーツを訪ねて～

かぐら かまと 神楽と竈

夜 神楽の季節となりました。本県では山間部を中心に各地で神楽が舞われるようになりました。私が初めて宮崎の神楽を見たのは昭和56年。もう、34年前になります。その頃は、まだ、椎葉や高千穂では公民館ではなく、民家で神楽を舞うことがよく見られました。夕方から舞い始められ、夜明けにちかづくと、舞手が台所に舞い込んでいき、竈の前では何やら太夫さんが祈祷をしている姿が見受けられます。ところが、近年では公民館など、民家とは別の施設で舞うことが多くなったために、竈の儀式を行いう機会も少なくなりました。昭和60年に、椎葉村小崎で、久しぶりに民家で神楽を舞うことがあります。このときの最後の演目となる「神送り」で、舞手が横一列となって歌いながら、竈に練りこんでいき、火の神のご神体となるオゴケ(芋桶)を、太夫が竈の前に座っている神楽宿の奥様に手渡すという儀礼が見られました。また、椎葉村尾前では、竈の火の力を再生させるためとして、「うじいれ」と称する儀礼がやはり、明け方にされていました。

執筆者プロフィール

永松 敦
ながまつあつし

椎葉民俗芸能博物館・副館長などを経て、現在、宮崎公立大学人文学部・教授。

「Crescendo」vol.120のコラム「十五夜踊り」におきまして、表記に誤りがありました。心よりお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正させていただきます。
【誤】西都市平小牧 → 【正】西都市平群(へぐり)・佐土原町平小牧



うじいれ 椎葉村尾前

竈の前に、神楽宿の夫婦が着座し、竈には、ヒエやアワの穂が供えられ、大豆を入れた杵が供えられます。これらは焼畑の作物なのです。木製の人形や火の神と水神の御幣も飾られています。火の神の御幣は赤い紙、水神の御幣は緑の紙で作られ、火の神の御幣の前に、水神の御幣がX状に飾られています。これは、火の神を再生させるのですが、あまり、勢いが強すぎると火災となるので、水神の力によって火が荒れるのを防ぐために行われています。太夫の祈祷の中に、宿の夫婦は盃を三度交わします。その際、ご夫婦の背後で、舞手二人が火の神舞を奉納します。火の神様の前で、ご夫婦が婚姻の儀式を執り行うことになります。尾前では、神楽だけではなく、家を新築したり、竈を作り直したりしたときも、「うじいれ」を行っていました。今回、太夫さんにお願いをして、なんと15年ぶりに公立大で復活していただきました。民家でしか行わない儀礼をこれからも大切にしていきたいものです。

ミュージック・シェアリング(音楽アウトリーチ)



今年度は、計55団体の応募があり、24団体を訪問！

第3期(H.27・28年度)は、オーディションで合格した熊谷愛香(フルート)/野崎さやか(ピアノ伴奏)と高場涼子(ピアノ)の演奏家2組が県内の端から端まで音楽をお届けします！

熊谷愛香(フルート)

ある学校の校長先生が事前打ち合わせの際にこんな事をお話しして下さいました。「地方の子供たちにとってフルートを聴く機会は、このアウトリーチのコンサートが最初で最後かもしれません。大人になった時に思い出すフルートの音は、熊谷さんの音でしょうね。」背筋が伸び、本当に光栄な活動をさせていただけていることに改めて感謝しました。これからもピアノの野崎さやかさんと共に、沢山の人にフルートを、音楽を好きになってもらえるような演奏をお届けていきたいと思っております。

高場涼子(ピアノ)

あっという間に、1年目のアウトリーチ活動も過ぎようとしています。1期、2期の伴奏者として感じた事を、新しい事に挑戦したいという気持ちが、応募のきっかけとなりました。実際にやってみると、演奏と会話を通じて、コミュニケーションを直接取ることができ、普段のコンサートとは違った感覚があります。話すことは苦手！と思っていた私ですが、話すことが楽しみ！と、気持ちも変化してきました。回を重ねる毎に、少しずつ会話を楽しみながら、演奏につなげられていると感じています。これまでの経験を大切に、これからも新しい挑戦をしていきたいと思います。



10/7 高岡小学校(宮崎市)



7/17 わかくさ保育園(延岡市)

開催団体 募集

現在、来年度(H.28.6月～H29.2月)に音楽アウトリーチを希望する団体を募集しています(応募期限:H28.1.22)。身近に音楽を感じることのできるこの機会を、ぜひ活用ください！詳しくは、劇場HPをご覧ください。

<http://www.miyanazaki-ac.jp/>

メディキット県民文化センター
(宮崎県立芸術劇場)

自主事業公演チケット情報

2月14日(日) 開場10:30 開演11:00

チケット発売中

アイザックスターントホール

おんがくのおもちゃ箱シリーズPart.2(オルガン編)

パパ・ママだいすき!
バレンタインコンサート

0歳から入場できるコンサート♪



[プログラム]
バスにのって
なんの動物ができるかな?(日本の童謡より)
ボレロ ほか



全席自由
4歳未満無料
4歳以上500円
なかよしチケット
(4歳以上2人組)700円
※前売りのみ

7月に開催した本シリーズ
「七夕コンサート」の様子

Attention(ご注意)

- ◎記載情報は変更になる場合があります。
- ◎割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。
- ◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増
(一部公演除く)になります。

1月28日(木)

ランチタイム・コンサート
開場11:00 開演11:30
ソフレ・コンサート
開場18:30 開演19:00

演劇ホール

2月5日(金)

開場18:30 開演19:00

6日(土)

開場17:30 開演18:00

7日(日)

開場13:30 開演14:00

演劇ホール舞台上舞台

2月27日(土)

開場18:30 開演19:00

28日(日)

開場13:30 開演14:00

イベントホール

<シリーズ>大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座 vol.4 詳細はP1・2▶▶

ラヴェルを巡る音楽～100年前のパリって…?

チケット発売中

「ランチタイム・コンサート」～気軽に楽しむお昼の60分～
全席自由 一般1,000円[会員800円]「ソフレ・コンサート」～じっくり楽しむ夜の100分～
全席自由 一般2,000円[1,800円] U25割1,000円 親子割2,500円

チケット発売中

チケット発売中

「演劇・時空の旅」シリーズ#8

1928年/ドイツ『三文オペラ』

作:ベルトルト・ブレヒト 訳:谷川道子

音楽:クルト・ヴァイル

演出:永山智行(宮崎県立芸術劇場 演劇ディレクター)
全席自由 一般3,000円[会員2,700円] U25割1,500円
なかよしチケット(ペア)5,000円

チケット発売中

チケット発売中

◆本州ツアーアイ

・いわき公演 2月13日(土)～14日(日)

会場:いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場

・横浜公演 3月5日(土)～6日(日)

会場:KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ

'15みやざきの舞台芸術シリーズⅢ
ユニークポイント公演 「アイ アム アン エイリアン」

作・演出:山田裕幸 企画:山路誠(佐土原町在住)

1/9一斉発売

静岡を拠点に活動する
劇団「ユニークポイント」の
代表作が九州初上陸!
宮崎県出身の俳優、
古澤光徳(日南市出身)と
ナギケイスケ(都城市出身)も
出演します。

全席自由 一般2,500円 学割(小～大学生)1,000円 ※当日券も同一料金です。

パイプオルガン プロムナード・コンサート

土曜日の朝はオルガンでブランチを…
『オルブラ』 パイプオルガンから降り注ぐ「音楽のシャワー」を
浴びて…いつもと違う土曜日がはじまる♪1/16
(土)オルガニスト
青木早希(フランス在住)

vol.149 テーマカラー:白

世界最高峰の「シャルトル国際オルガンコンクール」
をはじめ、国際コンクールで優勝!新時代を担う若き
オルガニストが「白」の音楽世界へ誘います。

チケット発売中

3/5
(土)オルガニスト
野美山由加里(福岡県在住)

vol.150 テーマカラー:緑

東京藝術大学卒業時に最優秀賞であるアカンサス音
楽賞を受賞!全国各地でソロ演奏を行うオルガニスト
が「緑色」からイメージする曲をお届けします。

チケット発売中

開場10:30 開演11:00

[会場]アイザックスターントホール

一般500円 なかよしチケット(4歳以上2人組)700円 ※4歳未満の入場はご遠慮ください

お問合せ

宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER〒880-8557 宮崎市船塚3-210
<http://www.miyazaki-ac.jp/>

TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670

Twitterとfacebook随時更新中!「フォロー」と「いいね!」お待ちしています。